

第4回弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会  
会議録【議事概要】

日時：平成24年5月31日（木） 午前9時～午前11時45分  
場所：弥生いこいの広場隣接地  
出席：澁谷リーダー、メンバー6名、オブザーバー1名 計8名  
欠席：4名  
事務局：3名

---

1 開会（定刻）

2 企画課長あいさつ

3 現地調査及び資源探し

今回の懇談会について澁谷リーダーから説明し、現地調査及び資源探しを行った。以下は主なやりとりについて記述。

- ・今まで懇談会で議論してきたことが、どの場所だとできるか、またはできないかを考えながら、歩いてほしい。
- ・ロープ塔の西側は今まで開発がされていないので、今回の目玉となるかもしれない。この辺を今回は時間をかけて歩きたい。
- ・砂防えん堤、東側地を確認し、殿様道路へ向けて歩きたい。
- ・殿様道路周辺の不法投棄の現状を確認し、この土地を開放したときにどうなるかを考えてほしい。
- ・沈砂池、防災調整池、集水塔を確認する。
- ・この場所に戻り、現地調査後の感想と今後の進め方について話し合いたい。
- ・防災関係について今回の懇談会では、現状を確認するのみとする。

《現地調査及び資源探し、①への道中》

【澁谷】

これはウルシ。子供たちがいるときは危険だ。危険なものはウルシやハチ、マムシとジムグリ（ヤマカガシ）など。ジムグリは血清が少ないので、かまれたときは大変だ。

《現地調査及び資源探し、①付近》

【澁谷】

これは車輪に樹が絡んだロープ塔小屋。この辺からみる東側の景観がすごく良い。

開発ではこの下がやられた。表土を採ってしまい、いろんな施設を途中まで造ったりした。

この上が、かつてはロープ塔がありスキー場があったりしたが、ほとんどが今も手つかずの状態。白樺がずいぶん生えているが、それでも放置されて年数も経っているので、かなりの樹がいっぱい生い茂っていて、この下とは全く違うものとなっている。今歩いてきてわかるようにここまで何もない。さっきのウルシなどに気を付ければ、ここまでは幼稚園児でも来られる。それと反対に、もしここで何かをしたいとなった時には、トラックは無理だが、小さな運搬車位は入ってこられる。もし、ここを開放するときにはこのルートは有効に使える。ちょうど良い距離で景観もすごく良いからスターウォッチングはこの辺であれば、安全に夜空を見上げることができる。ましてや朝日なんかも良いかもしれない。例えば、ここで何かをするときに、この場所を作業した人たちの休憩する場所など、うまく使えば人をいっぱい呼び込んでいけるのかなと思う。

《現地調査及び資源探し、②への道中》

【澁谷】

これは山を登る人たちは歩道と呼んでいる。これをうまく利用すると、特に整備していなくてもどんどん上の方に入っていける。

《西側地境界付近》

【澁谷】

ここまで来られるのがわかったでしょう。例えば、子供達がドングリをいっぱい拾って、下にばらまけば良い。土がないから植生するかはわからないが。

《現地調査及び資源探し、②から①への道中》

【澁谷】

土、腐葉土の厚さが全然違う。すごくいい匂いがする。

【竹谷】

白神あたりだと腐葉土がこうだ。スポンジ状態になって、水が浸透していくので崩れない。表土が流れない。山の道路というものは、水が多くなると

完全に川になっている。さっき見た排水溝を両側に付けなければ道路を保つことができない。

【澁谷】

このふかふか感は絶対に人工的には作れない。1センチの腐葉土は百年かかる。

《現地調査及び資源探し、①から③への道中》

【澁谷】

ここまでが北側へのルート。ここから東の方へ下りて行く。北側のルートは歩いてくる分には障害となるものはない。

皆さん、珍しいものがある。竹の花、竹に花が咲くとケガチ（飢饉）といって、凶作の年になったりする。

【竹谷】

もう少し経つと実がなる。実がなった時、米がなければ食べたもの。知り合いの中にこれを食べた人もいる。山形県出身の人だが。竹の花が咲くと竹が死んでしまう。

《現地調査及び資源探し、④への道中》

【竹谷】

熊の糞がある。今年は多いらしい。

【澁谷】

去年、ナラの実が不足だったのでは。

【竹谷】

去年、ドングリがなかった。

【澁谷】

ドングリがだめだと、下がってくる。山が豊作だと熊は下りてこないけれど、去年はナラの樹系が皆無で山を下りてくる。

《現地調査及び資源探し、④付近》

【澁谷】

今まで歩いてきたところは少し手が加わり、だんだん自然が復元されてき

た場所。これから入るのは、スキー場の本当の跡地になる。表土がなくなるところなのかというのが、多分すぐわかる。足元がかなり湿地になっている場合があるので、無理しないでください。ただ、生えてある木も、下にあるものも今までとはガラッと印象が変わる。なぜこうなのかを少し考えてもらえれば。緑豊かな、大きい樹が生えてくるためにどうすればよいのかわかると思う。柳やハンノキなど湿地に強い木ばかり生えている。

《現地調査及び資源探し、殿様道路からの進入路》

【澁谷】

こういうこと（バリケード）をしないと4トントラックだといくらでも入ってこられる。開放した場合、その辺をどうするか考えないといけない。

《現地調査及び資源探し、⑤を經由し⑥》

【澁谷】

これが沈砂池。まず、水が入ってきて、重い砂などをここに溜める。その上澄みだけが流れていく。これ自体はそんなに深いものではないけれども、かなり埋まっているのは事実。これは、厚い土木シートでやっているの、何年、何十年持つかわからない。

《現地調査及び資源探し、⑦及び⑧》

【前田】

これは何のためにあるのか。

【澁谷】

例えば、何もしないと雨が降った場合、山でも土に浸み込んだり、葉っぱについたりして100降っても、流れるのは40とか50。ところが、樹が無くなると、100降ると70とか80が流れる。そうすると、今まで山があった場合、40で済んだものが70になると30がどこに行くかとなるとそれが川に流れる。そうなる川に一挙に流れるので、それを防ぐためにこれがある。ここに一旦溜めて、48時間とか72時間後に徐々に流していく。これが、防災調整池。それが、溜まらないように沈砂池がある。相変わらず、泥は流れてきている。今ある細かい沢がずっと洗掘されているので、泥が入ってきている状況。この辺の泥上げの問題もあるが、それは懇談会の話ではなく、防災関連の話なので。皆さんにはこういう状況で、こういう施設だということを知っていただきたい。

《現地調査及び資源探し、⑨》

【澁谷】

今そこに見えているのが、コンクリート管が立っているもので、暗渠排水の中継点。これが、敷地内にたくさんある。突然地面からニョキとはえている。多分計画では、あのとっぺんまで土が全部くる予定だったと思う。大きいものになると、人の背丈より高いものが立っている。これを全部探すのは大変。まだ、こういうものが点在している。

この道路からいまの跡地に入れる接点の場所、ここが一番です。あとはない。段差がなくて、その気になって入ろうと思えば入れるけれども、すぐ中はブッシュなので。お客さんたちが見て、車窓の風景でいいなあと思えるのは、この辺だと思う。ただ、特別何かをしようかというのは・・・。

4 作業

《懇談会メンバーによる意見交換》

【澁谷】

図面や写真とは大分違うとわかったと思う。自分達があれをやればいい、これをやればいいと思い描いたものと比べると、あまりにも広すぎたというのが実感だと思う。次回は今日見たこと、感じたことを少しまとめて話をひろげていきたい。今日作業するのは辛いので、皆さんに意見を伺いたい。

【竹浪】

ここから上の方、キャンプ場から上の方、ロープ棟から上の方は今の季節歩いたことがなかったので、今日歩いてみてすぐ利用出来るような場所だと感じた。特に森林の中がよかった。心地よく楽しめるような感じで、今使える場所としては西側地があるという感じはした。

もう一つは、東側地の開発された方はこれからどんどん変化が出てくる場所だと思う。完成された物でなくてこれから自然の変化を見て歩くには、なかなかいい場所になり得る。そこで遊ぶとなるとなかなか難しいと思うが、もう一工夫あればいいのではと思う。

それから調整池の方だが、人をいれるには大変な場所だと思うが、確実に豊かな自然がある場所ではないかと思う。私たちはまだあそこをきちんと調べたことがないけれども、常に水が供給されていて、湿地になっていて、そして今、樹がどんどん繁殖している最中ということで、多分ハッチョウトンボも調整池の方で繁殖したのかなと思う。ちょっと時間をかけながら調査して、大事にしておきたい場所だなという感想だ。

【竹谷】

竹浪さんがほとんど言ったが、もし遊歩道などを作るのであれば、あまり広い道路を作らないで人が歩ける程度の道路を作ってもらいたい。

【佐藤】

今日、初めてこの現場を見たが、広大な土地だと思う。ここで物を一つ作るにしてもちょっと複雑な問題も絡んでくると思うが、私が一番気に入ったのはやっぱりあそこの池。あの辺を自然的なちょっと外観の綺麗なものにしていったらいいのかなと思う。

【蒔苗】

私が見て思ったのは、道路の脇のゴミをなんとか出来ないのかという思い。さっき、ラジオのコマーシャルでやっていた富士山のゴミを拾うというようなことが出来れば、いくらかでも違ってくるのかなと思う。あと西側地に道路や歩ける場所、開けた所があるので、あの辺を遠足に来たりしている保育園や幼稚園の子どもたちが、入っていけるようなものでも出来ればと思う。

【神（尚）】

私も今日初めて現場を見て、自然にかなり戻っていると一番感じた。開発したところは、まず20年ぐらい30年ぐらいだったらそんなに自然に戻らないのではと思っていたが、かなり戻っていたという印象が一番。やっぱり現場に入ってみて、自分なりに発電をやればいいのかなどいろいろ考えていたが、そのためにはかなり費用もかかるのかなと思う。費用をあんまりかけられないのであれば、自然をいかすために、自然をいかしたまま人を集めるにはどうしたらいいのかなど感じた。

ここはワラビなどの山菜が身近にあり、この自然のワラビなども取れるようにしてもいいと思う。有意義な日だったので、これをいかしてまたいろいろと感じていき、考えられたらいいと思う。

【前田】

山歩きは得意ではないが、入ってみて意外に自分達でもいろんなことを見て歩けるところ。あれを整備するより潜って歩いたり、花やいろんな木、草などを昔こういう風に使ったとするのもおもしろい。いろいろなものを作るとか整備するのではなくて、あの自然そのものを見て歩いてほしいなという気持ち。前回までの会議で言っていたことが、やっと自分で現実に見て歩いて頭に入ってきたような感じがした。

【澁谷】

ありがとうございました。その皆さんの考え、感じた事は多分そうだと思う。だから、机上でいろいろしゃべることも大事。実際に入ってみると変に整備やらない方が良くかなと思うし、ここは見晴らしがいいとかね。例えば、もし子供たちを連れてくれば、やっぱりベンチがあればいいとか、ご飯食べる場所に少しテーブルがあればいいという場所もあると思う。その程度のものだと思う。道路作るとかではなくてね。あとその危険な所は、なんとかしてはならない。それと皆さんが言ったゴミ。下手に開放して中に入って来るとまずいので、そういうことも詰めていきたい。皆さんでこの弥生の跡地を市民に開放する時には、こんなふうにしたらいいと提言にまとめられたらと思うので、今回の取りまとめをして次回に皆さんにお示ししたいと思う。

5 閉会

以下のとおり、事務局から事務連絡の上、懇談会を閉会した。

- ・ 今年は今後4回の懇談会開催を予定。
- ・ 次回開催は、6月下旬で調整。

<終了>